

博物館評価とは

博物館が当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立博物館では、博物館評価の実施に向け検討と準備を進め、平成 27 年度実績の評価について試行的に実施し、平成 28 年度実績の評価から本格実施へと移行しました。

評価の方法

当館による自己評価と栃木県立博物館協議会による外部評価があります。

- ・自己評価は、目標の達成状況について定性的評価及び定量的評価を行うものです。
- ・外部評価は、自己評価結果の妥当性を検証し、今後のあり方に関し助言を行うものです。

評価結果

栃木県立博物館評価シート（令和 2 年度実績）

栃木県立博物館評価シート(令和2年度実績)

1. 定性的評価

目標値: チェックリスト評価項目の数×3

達成値: チェックリスト評価aの数×3+bの数×2+cの数

評価基準 A:90以上 B:89~80 C:80未満

総括

評価項目		目標値(a)	比率 (b/a×100)	評価	備考
		達成値(b)			
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	15	100.0	A	
		15			
	(2) 資料の保存管理	24	87.5	B	
		21			
2 調査研究		12	83.3	B	
		10			
3 展示・普及教育活動	(1) 共通	9	88.9	B	
		8			
	(2) 常設展・企画展等	21	100.0	A	
		21			
	(3) 普及教育活動	15	100.0	A	
		15			
4 施設の計画的な整備・維持管理		24	91.7	A	
		22			
5 情報の発信と公開		18	94.4	A	
		17			
6 県民参加		15	80.0	B	
		12			
7 効果的・効率的な管理運営		12	100.0	A	
		12			
8 中核的博物館としての機能充実		24	100.0	A	
		24			

内訳

評価項目		a評価	b評価	c評価	備考
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	5	0	0	
	(2) 資料の保存管理	5	3	0	
2 調査研究		2	2	0	
3 展示・普及教育活動	(1) 共通	2	1	0	
	(2) 常設展・企画展等	7	0	0	
	(3) 普及教育活動	5	0	0	
4 施設の計画的な整備・維持管理		6	2	0	
5 情報の発信と公開		5	1	0	
6 県民参加		2	3	0	
7 効果的・効率的な管理運営		4	0	0	
8 中核的博物館としての機能充実		8	0	0	
計		51	12	0	

1 定性的評価項目チェックリスト

a: おおむねできている b: ある程度できている c: 不十分

大項目	中項目	チェック内容	評価	備考
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	① 館が定めた中・長期的な収集方針に基づき資料収集が行われているか	a	
		② 県民ニーズや時代の要請を踏まえて必要な資料収集が行われているか	a	
		③ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	a	
		④ 収集資料の燻蒸・クリーニングが適切に行われているか	a	
		⑤ 標本作成途中の資料の管理が適正に行われているのか	a	
	(2) 資料の保存管理	① 資料の収蔵スペースは確保されているか	a	
		② 資料の収蔵環境は適正に管理されているか	b	空調なしの収蔵庫あり(地学)
		③ 有害生物のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	a	
		④ 資料の修復や保存処理等の措置を必要に応じて行っているか	b	(真空凍結乾燥機R3購入)
		⑤ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	a	
		⑥ 資料台帳・データベースが整備・更新されているか	b	システム不具合改善されず予算要求中
		⑦ 収蔵庫の入退室管理簿が整備されるとともに、適正に管理されているか	a	
		⑧ 収蔵庫の鍵が適正に管理されているか	a	
2 調査研究	① 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	b	コロナの影響	
	② 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加しているか	b	コロナの影響	
	③ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	a		
	④ 調査研究の成果を、国、県、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	a		
3 展示・普及教育活動	(1) 共通	① わかりやすく楽しめる展示の工夫をしているか	a	
		② 栃木県障害者差別対応指針に基づき支援が必要な人のための対応がなされているか	b	場面や状況に応じた合理的配慮 途上
		③ 温度・湿度・照度等の展示環境を適正に管理しているか	a	
	(2) 常設展・企画展等	① 新収蔵庫棟を活用し常設展示資料の展示替えが適宜行われているか	-	(R3.4~供用開始)
		② 常設展の展示資料や設備等が適宜点検・整備されているか	a	
		③ 常設展の展示情報が適宜修正・更新されているか	a	
		④ 常設展の展示解説等が適宜実施されているか	a	
		⑤ 中・長期的な企画展の開催計画を策定しているか	a	
		⑥ 総合博物館として、人文・自然の各部門が連携協力した企画展・テーマ展等を開催しているか	a	
		⑦ 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、企画展・テーマ展等を開催しているか	a	
		⑧ 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した企画展・テーマ展等を開催しているか	a	
	(3) 普及教育活動	① 多様な参加者を想定したプログラムが用意されているか	a	
		② 学校教育活動との連携を図っているか	a	
		③ 教員指導者向けの支援・育成プログラムを実施しているか	a	参加率が低く課題あり
		④ 事業実施にあたり参加者の安全が配慮されているか	a	
⑤ 学芸員実習や職場体験の学生・生徒を受け入れ、適切に指導しているか		a		

4 施設の計画的な整備・維持管理	①	施設の維持・改善についての計画を策定しているか	b	計画は策定しているが予算件わず
	②	危機管理マニュアルを整備し職員に周知しているか	a	
	③	緊急事態に対応できるよう、消防・避難等の訓練を定期的実施しているか	a	
	④	休憩コーナー、授乳コーナーの設置や車椅子の貸し出し等、来館者が快適に観覧できる環境が整っているか	a	
	⑤	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	a	
	⑥	館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	b	英文のみ。多言語は未
	⑦	駐車スペースについて利用状況に応じた対応が行われているか	a	
	⑧	感染症対策を徹底しているか	a	
5 情報の発信と公開	①	館の使命や運営状況をホームページなどで公開しているか	a	
	②	ホームページ、SNS等を活用して展示・普及教育情報を広く発信しているか	a	
	③	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	a	
	④	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等)に適切に対応しているか	a	
	⑤	二次資料(写真等)の特別利用(原板使用等)に適切に対応しているか	a	
	⑥	資料のデータベースを公開・更新しているか	b	不具合のため更新困難
6 県民参加	①	ボランティア活動が活発に行われているか	b	コロナの影響
	②	ボランティア研修が適切に実施されているか	b	コロナの影響
	③	友の会、研究団体、文化団体等が館事業に参加する機会を設けているか	b	コロナの影響
	④	施設利用のための情報が公開されているか	a	
	⑤	オープンスペースを有効に活用しているか	a	
7 効果的、効率的な管理運営	①	館として中長期的な経営目標を定め、職員に周知しているか	a	
	②	館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っているか	a	
	③	事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価を実施しているか	a	
	④	事業面、管理運営面など全般にわたる外部評価を実施しているか	a	
8 中核的博物館としての機能充実	①	公開承認施設として資料を公開しているか	a	
	②	県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	a	
	③	県内の博物館施設を対象とした協力・支援・連携事業を実施しているか	a	
	④	県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	a	
	⑤	地方自治体や各種組織に専門的な立場で助言・情報提供を行っているか	a	
	⑥	大学、高校等の教育機関への寄与・貢献を行っているか	a	
	⑦	県内外の学会、研究会等の運営に寄与・貢献しているか	a	
	⑧	栃木県博物館協会の中心館として機能しているか	a	

栃木県立博物館評価シート

2. 定量的評価

評価基準 A:おおむねできている[比率(90以上)] B:ある程度できている[89~80] C:不十分[80未満]

分野	評価項目	基準値(a)	比率 (b/a×100)	評価	備考	
		実績値(b)				
利用状況	年間博物館入館者数	83,909 人	86.6%	B	R2.4.8~5.10臨時休館 R3.1.14~2.22各種イベント等中止 コロナの影響	
		72,670 人				
	レファレンス件数	844 件	98.6%	A		
		832 件				
展示	企画展・テーマ展	13 件	100.0%	A	[企画展・テーマ展]の開催回数で規模の大きな展示の回数の評価と[ロビー展示・トピック展示]の低予算で小規模展示でも工夫を凝らした展示回数を追加 R2は開館日は、全室利用(企画展・テーマ展なしの日0日) コロナの影響によりアンケート実施せず	
		13 件				
	ロビー展示・トピック展示	9 件	122.2%	A		
		11 件				
	展示室利用率	91.4 %	109.4%	A		
		100 %				
	来館者満足度	90.4 %	-	-		
		- %				
普及教育	普及教育事業開催回数	281 回	59.8%	C	R2.4.8~5.10臨時休館 R3.1.14~R3.2.22各種イベント等中止 コロナの影響 ↓	
		168 回				
	地域移動博物館	回数	7 回	71.4%		C
			5 回			
		人数	20,233 人	55.8%		C
			11,299 人			
	出前授業	58 回	67.2%	C		
		39 回				
	学校来館数	149 件	79.2%	C		
		118 件				
資料の活用	資料貸出件数	181 件	91.7%	A		
		166 件				
	新規 データベース公開件数	13,047 件	32.4%	C	データベース不具合のため	
		4,223 件				
調査研究	研究論文・研究報告書等件数	59 件	98.3%	A		
		58 件				
	口頭発表件数	32 件	68.8%	C	コロナの影響により、学会・研究会・講演会等の中止のため、発表件数減	
		22 件				
情報の発信	報道機関取材	59 件	159.3%	A		
		94 件				
	ホームページアクセス件数	430,307 件	104.8%	A		
		450,842 件				

3. 年度内に取り組んだ重点事業・新たな取り組み等

<p>事業の概要</p>	<p>令和2年度は、コロナ禍の中、臨時休館(R2.4.8～R2.5.10)や各種イベント等の中止(R3.1.14～R3.2.22)があり、各種展示や催し物等の計画変更を余儀なくされる厳しい環境の中、新型コロナ感染防止対策を徹底した上で、新たな取り組みを積極的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展、特別展示、テーマ展の開催 企画展「生誕250年記念、偉大なる無名画家 小泉 斐」「貝ってすてき！～美しい貝、美味しい貝、とちぎの貝、大集合～」 「ちょっとディープな日光の自然ガイド」をはじめ、特別展示「令和の御大礼－悠紀地方に選ばれた栃木－」、テーマ展・トピック展において、親しみやすく分かり易い展示を工夫し、本県の自然・歴史・文化の魅力や特色を広く県民等に情報発信した。 ・普及教育事業の推進 市町や学校等と連携しながら、地域における移動博物館や出前授業・観察会の実施など、普及教育事業を積極的に推進した。 ・各種メディアを活用した情報発信 ホームページやフェイスブック等を活用し、行事イベントやボランティア活動等、情報発信を行った。また、取材や新聞コラム欄への定期的な執筆活動等を通して、調査研究に係る情報発信を積極的に行った。コロナ禍においては、小学校の団体入館向けメニューや展示内容の動画をネット配信し、休館中、来館できない方々に情報発信し、開館後の誘客効果を狙った新たな企画を実施した。 ・県立博物館の日イベントの実施 毎月第3日曜日を「県立博物館の日」とし、学校や関係団体等の協力を得ながら各種イベントを実施した。 ・新収蔵庫棟の整備 令和2(2020)年3月竣工し、令和3(2021)年4月の供用開始に向け、移転資料の保存に適した庫内環境を整備し、収蔵棚の購入及び資料の移転業務を実施した。
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4・5月には臨時休館となったものの、当館としては、初めて展示内容の動画をネット配信するなど新たな手法を取り入れた情報発信を行った。臨時休館が解除になってからは、新型コロナ感染防止対策を徹底した上で、テーマ展「骨が語る動物の秘密」や「いろいろな時代の衣装と道具」等、館蔵資料を活用した展示を、急遽計画し、展示に穴を開けることなく年間を通して本県の歴史や文化、自然について情報発信を積極的に行った。その結果、7万人を超える多くの方に入館していただいた。(入館者数:R元:79,640人、R2: 72,670人 展示室利用率:R元:92.8%、R2:100%) ・企画展「ちょっとディープな日光の自然ガイド」で使用したプロジェクションマッピングを企画展終了後も、スロープ展示の導入部分で常設展の展示に有効に活用した。 ・特別展示「令和の御大礼－悠紀地方に選ばれた栃木－」では、県農政部とコラボレーションを図り、とちぎの米作りの展示やミュージアムショップやレストランにおいて、米や酒の販売やメニューに取り入れるなど「とちぎの星」のPRに一役買うことができた。 ・臨時休館やイベントの中止等により講座や見学会・観察会等の中止が相次いだ。感染拡大防止策を徹底した上で市町や学校との連携強化に努め、実施回数や参加人数は例年に比べ、減少したものの参加者等からは大変好評を得た。 (R元: 141,027人→R2: 28,373人) ・「県立博物館の日」は実施開始から7年、「県博デー」として定着し、協力団体の関係者等をはじめ、多くの入館者(平均626人)を確保するなど、「県民にとって開かれた親しみやすい博物館」として一定の効果を上げている。 令和2年度は、臨時休館やイベントの中止のため、コンサート等すべてのメニューが実施できたのは、4回(9月・11月・12月・3月)にとどまった。 ・新収蔵庫棟整備については、令和2(2020)年3月に竣工し、収蔵棚の購入及び資料の移転も完了し、令和3年4月から供用が開始された。また、駐車場は、土・日等の混雑時には、駐車スペースの調整を行い、収容台数の改善を図った。

4. 総合評価

基準値: 評価項目の数 × 3

実績値: 評価aの数 × 3 + bの数 × 2 + cの数

評価の種類(項目数)	A評価	B評価	C評価
定性的評価(11項目)	7	4	0
定量的評価(16項目)	8	1	7
総合評価	76.5% [実績値/基準値: ((7+8) × 3 + (4+1) × 2) + 7 × 1 ÷ ((11+16) × 3) = 62 ÷ 81 = 0.765]		

5. 自己評価総括

評価	<p>「定性的評価」については、「資料の収集・保管」「展示・普及教育活動」「調査研究」「県民参加」において、コロナ禍等の理由により、十分な活動ができなかった項目があったものの、おおむね達成できていた。</p> <p>「定量的評価」については、コロナ禍において、臨時休館やイベント等の中止があったため、「普及教育」の各種事業の開催数や「調査研究」の口頭発表件数は基準値を下回ったが、新たな情報発信を試みたり、テーマ展「骨が語る動物の秘密」や「いろいろな時代の衣装と道具」では、館蔵品を活用した工夫を凝らした展示を新たに計画するなど、感染防止対策を徹底した上で、安心して楽しく観覧できる体制を整え、平年並みの入館者数を得、概ね 適正な運営であったと認められる。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設の計画的な更新 ・ボランティア活動の活性化 ・博学連携の推進 ・新しい生活様式を踏まえた安全安心な施設運営
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の計画的な更新については、施設の老朽化の現況や優先度を踏まえ、関係部局と協議・連携しながら予算の確保に努めていく。 ・ボランティア活動については、コロナ禍の影響により、活動の場が制限された中での活動だったが、今後、ボランティアの意向も踏まえながら、研修の充実、ICTを活用した情報発信等を積極的に行っていく。 ・博学連携については、さらなる各事業の内容の拡充や広報に努め、コロナ感染防止策をとった上で、出前授業や博物館体験プログラム等学校との連携を図っていく。 ・国や県の指針及び日本博物館協会の感染拡大防止ガイドライン等に則り、職員の健康確認はもとより、入館者に対する検温の実施等、必要な対策を講じる。また、ホームページやSNS等を活用し動画配信など博物館の情報を広く発信していく。

6. 博物館協議会総括

協議会の意見	<p>令和2年度の博物館の運営の状況については、概ね適正に運営されたと判断される。</p> <p>しかしながら、次の事項については、博物館本来の使命や県民サービス、県民との協働等、博物館運営に関わる大きな課題であることから、対応策を検討すること。</p> <ol style="list-style-type: none">1 コロナ禍での教訓を活かし、SNS、ホームページ等を活用し博物館の展示や活動を広く知ってもらい、実物を見るための来館意欲の喚起につながるよう、よりわかりやすい情報発信の工夫について検討すること。2 老朽化した施設の改修・修繕のほか、博物館運営の充実に向けて、関係部局と協議・調整の上、積極的な予算の確保に努めること。3 子供たちが自ら情報収集・整理・発表の取組を体験し、深い学びに結びつくよう、博物館のデータベースの充実や専門分野でのレファレンス機能の整備等、博学連携の推進について、検討すること。
--------	--